

寒河江市では、既存の3中学校を統合する新中学校の整備を進めており、『ふるさと寒河江を愛し、自ら考え行動し夢のある未来を切り拓く人づくりを担い、「新しい学び」と「居場所」があり、生徒も教職員もともに輝く学校』を基本理念とする新中学校施設整備基本構想を策定しました。

また、基本構想では、新中学校を整備する候補地を①教育・社会環境、②生徒の通学環境、③生徒や地域の安心・安全の確保、④寒河江市が目指すまちづくりへの貢献を条件に、用地選定を行いました。

この基本構想を受けて、基本計画（案）では、施設整備の具体的な施設内容、規模、配置等を検討しました。

計画地の概要

基本構想で選定した最有力候補地G-2地区は、寒河江市の人口重心に近い鷹の巣地区に位置し、県道天童大江線沿線で、路線バスやJR左沢線の利用も可能で交通条件にも優れています。計画地は、東側の寒河江高等学校グラウンドと西側の農地からなる約12万㎡の平坦な敷地です。

寒河江高等学校グラウンド敷地の譲渡については、山形県に要望しております。



※出典：国土地理院地図を加工して作成

機能構成と敷地活用方法

既存の3中学校の統合で生まれる新中学校は、3校の生徒数に対応した学校施設を整備することになり、施設規模も広大なものとなります。限られた敷地に効率的な施設整備を行うために、校舎の複層化、運動施設の重複（重ね合わせ）等を考慮しながら活用する敷地を検討しました。

検討の結果、令和11年度の新中学校の開校時期を実現すること、施設整備の費用負担を極力抑制すること等から、活用する敷地は、寒河江高等学校グラウンドと中学校敷地の併用とします。

開発用地：寒河江高等学校グラウンドと中学校敷地の併用

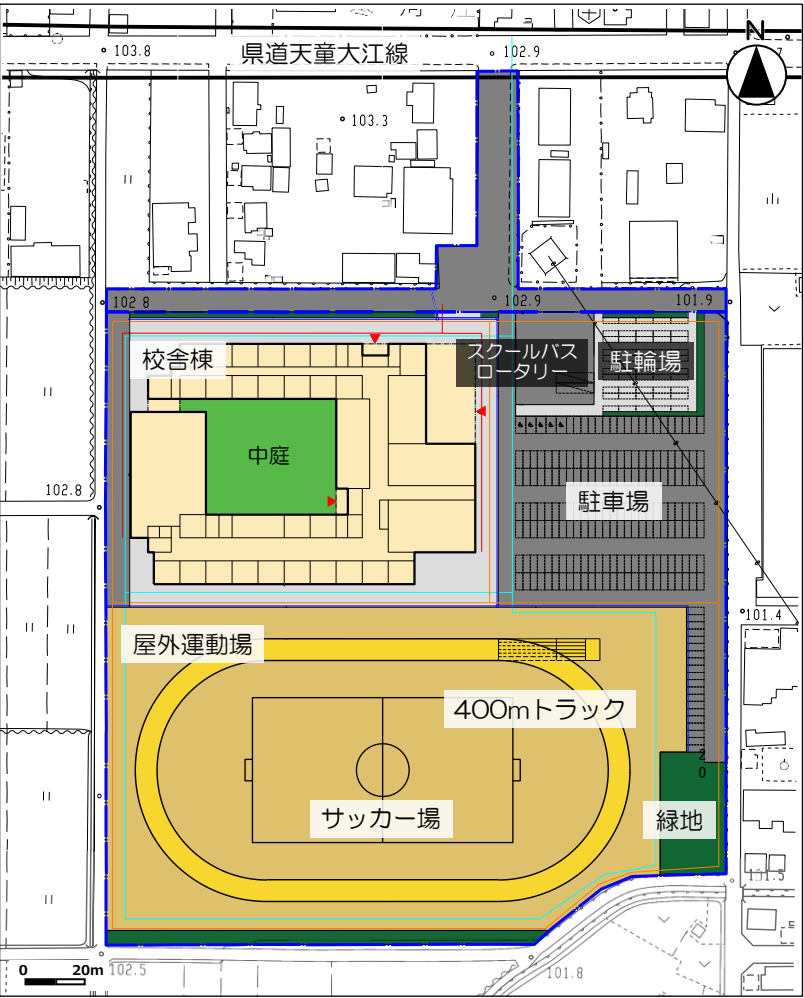
- 寒河江高等学校グラウンドの整備内容
校舎（教室等、屋内運動場、給食室）、陸上トラック・サッカー場、駐車場、駐輪場、スクールバスロータリー等
- 中学校敷地の整備内容
野球場、ソフトボール場、テニスコート等

＜対象敷地決定要素＞

- 令和11年の新中学校開校を目標に教育環境の充実を早期に実現する。
- 新中学校の陸上トラックを400mトラックとすることで、寒河江高等学校グラウンドの歴史と伝統を受け継ぎ、中高連携や地域連携を踏まえた多様な用途に活用できる。
- 400mトラックを整備することで内包するサッカー場との干渉エリアも小さくて済む。
- 寒河江高等学校グラウンド敷地は、新中学校の教育施設及び運営基盤の必須機能を1箇所で見込めることができる。
- 中学校生活を補完する部活動の場として、野球場、ソフトボール場、テニスコートは中学校の敷地を活用することで今後の地域展開を見据えた対応が可能となる。
- 中学校の敷地は利活用が検討されており、調整が必要であるが、公共施設を有効活用して、新中学校施設整備に要する経費の縮減を図る。
- 持続可能な社会の実現を目指し、農地を保全する。

敷地の機能配置（寒河江高等学校グラウンド敷地）

寒河江高等学校グラウンド敷地での機能配置は、下図に示す形態とします。



新中学校施設整備の基本計画案
校舎棟を北、屋外運動場を南に配置する形態

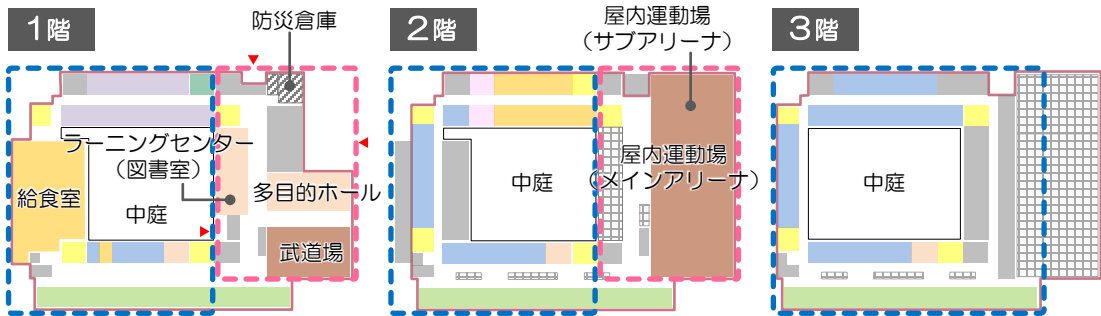
〈敷地の機能配置の考え方〉

- メイン通学路となる県道天童大江線から校舎棟へのアクセス性を重視する。
- 地域連携も含めて機能性、安全性、多様性への対応に配慮する。
- 良好な教育環境が図れる南面教室が多くとれる校舎形態とする。

校舎棟の機能配置

基本計画（案）における校舎棟の機能配置の考え方は、下図に示す通りです。

地域連携や地域開放にも対応する屋内運動場や多目的ホールを集約したエリアと、日照に配慮した普通教室や特別支援教室、特別教室等を集約するエリアの区分を明確化し、使い勝手と安全性の両立を図る配置とします。



※設計等において、校舎の形状等が変更になる場合があります。



整備スケジュール

本年、基本計画を策定した後、令和10年度までの期間に各種調査、設計、施工を行い、令和11年度の開校を目指します。

※ 寒河江市立新中学校施設整備基本計画（案）の詳細について
基本計画（案）の詳細については、市のホームページに掲載していますので、ご覧ください。